

【観点Ⅳ】学校の課題解決に向けた学校運営協議会の主体的な取組

心と体の成長をめざした「チャレンジタイム」の取組を通して 国東市立国東小学校（児童数164名）

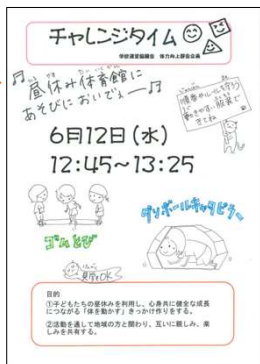
学校運営協議会の体力向上部会主催によるチャレンジタイムの企画・運営

【チャレンジタイムの目的(年度初め)】

- ①子どもたちの昼休みを利用し、心身共に健全な成長につながる「体を動かす」きっかけづくりをする。
- ②活動を通して地域の方と関わり、互いに親しみ、楽しみを共有する。

体力向上部会の取組内容

- 保護者が作成したチラシを掲示し呼びかけ
- 体力向上部会メンバーで企画
 - ・遊びの内容決定
 - ・道具の作成や準備
 - ・受付や遊び等、運営内容の確認
- チャレンジタイム(R6年5月発足)
 - 8回実施(2月末現在)



活動する中で子どもたちの成長が見られたため、より具体化された目的に変更

課題を解決するために

国東小の願いを学校運営協議会で共有

運動好きな子どもの育成、多様な地域の人と触れ合うことによる子どものコミュニケーション力(あいさつや礼儀を含めた)の向上

【チャレンジタイムの目的(現在)】

- ①子どもたちの昼休みを利用し、心身共に健全な成長につながる「体を動かす」きっかけ作りをする。
 - ・自分が的当てで投げた物は自分で取りに行き、次の人に渡す。 【規則の尊重・親切】
 - ・目標に向かって力を合わせる。 【協力】
 - ・道具を大事に使う。 【公共の精神】
 - ・自分の番が来るまで並んで順番を待つ。 【節度・自制心】
 - ・勝負にこだわり過ぎない。 【心理的な安定】
- ②活動を通して地域の方と関わり、互いに親しみ、楽しみを共有する。
 - ・あいさつしたり、お礼を言ったりする。 【礼儀・コミュニケーション】
 - ・地域の方々に支えられ、守られていると感じ、親しみを感じる。 【信頼】

当日運営の様子



受付時に子どもたちに声をかけながらしっぽを渡したり装着したりしてあげる(しっぽは低中高学年で長さや色を変え工夫)



静かに聞く姿勢になってからルール説明



しっぽの返却時子どもたちへ声かけや見守り

<これまでの遊び>

- ・ダンボールキャタピラ
- ・長縄
- ・ゴム跳び
- ・バツゴ
- ・ラダーゲッター
- ・カラータッチ
- ・フープジャンプジャンケン
- ・ケンケンパー
- ・風船バレー



しっぽとり遊び(進行や一緒に遊ぶ)



キャッチボール(体育館の人数が増えたので、外で希望者とキャッチボール)

地域主体の活動による工夫や効果

- *手作りの遊びで子どもたちがいきいきと楽しみながら体力をつけていく工夫がなされている
- *子どもたちどうし、子どもとおとなでの対話や交流を通して規範意識が育っている
- *子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり・絆づくりにつながっている
- *地域に任せることで学校の負担軽減につながっている
- *子どもたちの成長をみんなで喜び合っている